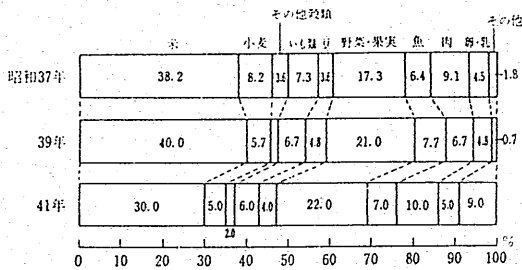
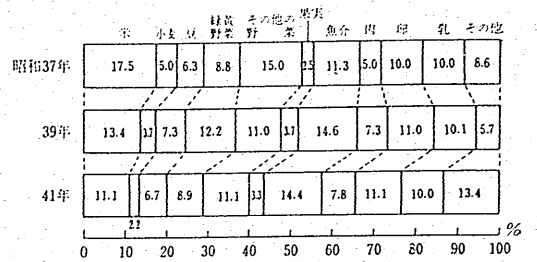


次いで、野菜、果実類と動物性食品から各22.0%摂取している。

図一八 ビタミンB₁の食品群別摂取構成



図一九 ビタミンB₂の食品群別摂取構成



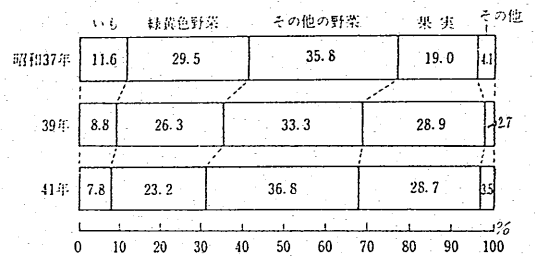
7. ビタミンB₂

ビタミンB₂は、各食品群から比較的平均して摂取しているが、年次推移をみると米と小麦の比率が年々低下している点は他の栄養素と同じである。

8. ビタミンC

ビタミンCの主たる給源は、野菜と果実類であって、その内訳は、その他の野菜類が36.8%、果実類28.7%、緑黄色野菜23.2%となっている。

図一〇二〇 ビタミンCの食品群別摂取構成



D 食材料費

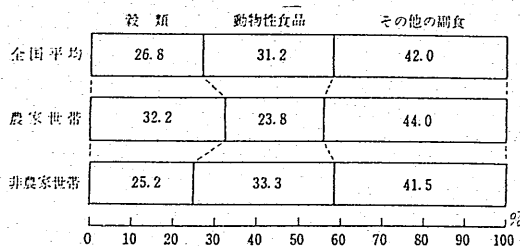
国民栄養調査でいう食材料費とは、昭和40年度までは、摂取した全食品量について、購入、自家生産、もらいもの等の別を問わずすべて市場価格に換算して1人1日当りの平均として計上したものであるが、昭和41年度は生活総合調査の一環として栄養調査を行なったため、各世帯が実際に購入した金額に基づいて、集計した金額である。

(注) 自家生産物を消費した世帯については、他の世帯の購入金額の平均価格によって算定した。

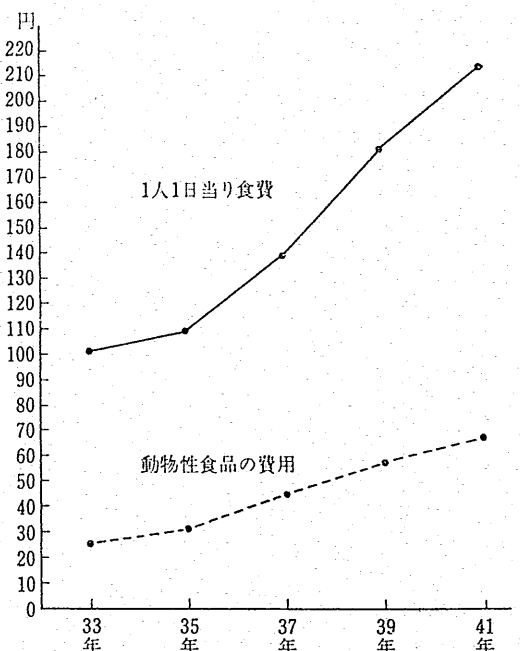
1. 全国平均食材料費

昭和41年の全国平均1人1日当り食材料費は212.16円である。食品群別に構成比をみると図一22のとおり、総額中に占める穀類の比率が26.8%、動物性食品31.2%、その他の副食42.0%となっている。

図一22 食材料費の構成比



図一21 1人1日当り食材料費の推移



世帯業態別食材料費

昭和41年度の食材料費を業態別にみると非農家世帯の食材料費は226.06円であり、農家世帯の174.81円に比べてかなり上回っている。

次に世帯業態を細分した結果についてみると農家世帯では常用勤労者のいる農家世帯が178.34円で最も高く、次いで、兼業農家の176.50円、専業農家世帯171.21円となっている。

また、非農家世帯については、自営業世帯が239.89円で全業態中で最も高く、次いで常用勤労者世帯が227.52円、最低は日雇労働者世帯の175.74円となっている。

なお、穀類、動物性食品、その他副食品の別に構成比をみると図-23のとおりである。

図-23 食材料費の構成比

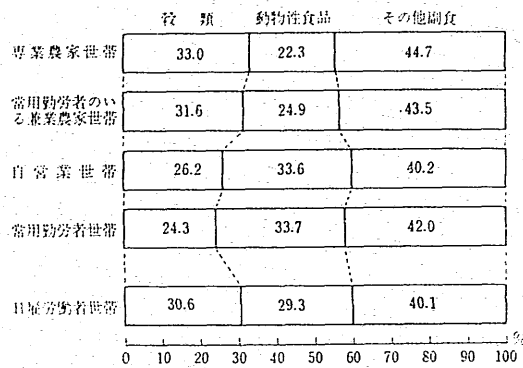
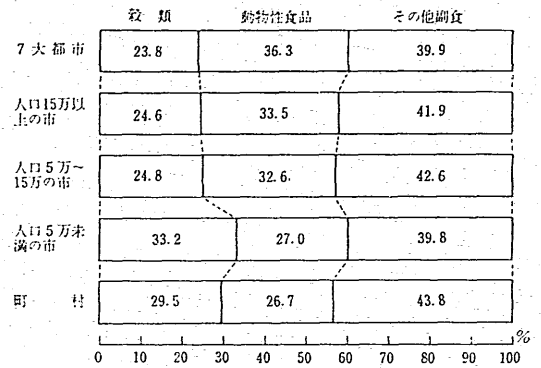


図-24 食材料費の構成比



3. 市郡別食材料費

市郡別の1人1日当り食材料費は、7大都市が250.07円で最も高く、次いで人口15万以上の市の234.01円、最低は町村の185.14円となっている。また、構成比をみると図-24のとおりである。

E 食生活の状況

昭和41年度の国民栄養調査は、厚生省生活総合調査の栄養、食生活に関する専門調査として行なったのであるが、その結果、食生活に関して次のような結果が得られた。

1. 献立の作成条件

各世帯の炊事担当者に献立をつくるときにまず最初に考慮することはどういうことであるかをたずねたところ図-25に示すとおり、過半数の世帯が「家族の好みを中心とする」(以下「好み」という)となっており、「買ったもので適当に作る」(以下「適当に」という)が17%、「栄養を中心とする」(以下「栄養」という)と「経済(予算)を中心とする」(以下「経済」という)がそれぞれ14.8%を占めている。

世帯業態別には、いずれの世帯業態も「好み」がもっとも多いが、農家世帯では「適当に」が他世帯に比べて多く「栄養」が少なく、自営業者世帯では「好み」が圧倒的に多く「経済」が少な

図-25 献立の作成条件

